

マイケルJローズ ニュースレター 2007年 秋号



今年のマイケルのセミナーが終わりました。参加して下さった皆さんとの新しい出会いと新しい再会に感謝します！マイケルはとてもオープンで軽やか、そして愛そのものでした。マイケルの愛のパワーだけでなく、参加された一人一人がオープンになって愛を放射することで、とても素晴らしいパワフルな愛のエネルギーが会場を包みました。その愛のエネルギーに包まれ、たくさんの人が変容していく姿を目の当たりにすることができました。

今も、女神山で響いていたアイラブユーを体の全細胞に、感情体に、メンタル体に、光の体に、すべてに響かせています。いつも、センターにいることの大切さをあらためて実感できました。帰ってからも、センターからぶれたら、意識して自分の中に中心を持ってきています。すべては自分への愛に始まり、自分への愛に尽きる・外にあるように見える問題も、すべては自分との関係にあること、すべて自分が現実を作っていることの真理がさらに深く入ってきました。

ネイチャーセミナーはこれまでよりも深まっていて、マイケルがいま、大自然のスピリットであるパンから学んでいることを、経験させてもらっていることを伝えてくれました。さらなる広い世界を見せてもらいました。私は広大な意識の存在である。その言葉を、毎朝気持ちを含めて体中に響かせています。

すべては自分の内側にある、自分次第、とてもシンプルな真実で、たくさんの人が語ってきた真理であることに、不思議感が湧いてきます。

誰もが偉大なる存在、創造主であることを、そして、変化は創造の過程であることを抱きしめて
喜び、愛、微笑をもって、軽やかなハートとともに、豊かな創造とその豊かな経験を楽しみたいと思います。

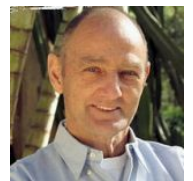
今回、マイケルはナチュラルスピリット社の雑誌「スターピープル」と、マキノ出版社の雑誌「安心」からインタビューを受けました。記事はそれぞれの雑誌に掲載される予定です。掲載予定はまだ先ですが、決まりましたらホームページでお知らせしますので、ときどきは、HPをみてください。

風が運んでくれる金木犀の甘い香りをまだ楽しんでいます。目には見えませんが、たくさんの、たくさんのスピリットが働いている小さな花に、思いを馳せるだけで幸せになるこの頃です。

皆さんも男神として、女神として、素晴らしい日々を創造されますように！

たくさん愛と感謝を含めて やすみ

マイケルのお話 by マイケル



今年の新しい始まりは、なんといってもキャロリンが私と共に暮らし始めたことです。キャロリンのようなワクワクする女性と一緒に暮らすことの衝撃は勿論ですが、彼女はまたスピリチュアル面でも、感情面でも私の人生に影響を与えています。私の古い自己満足は全て掃き捨てられ、独り者として作り出した快適さの全ては粉々になりました。また、そうされる必要がありました。

キャロリンは喜びそのものです。絶えずクスクス笑い、時折、彼女が失ったものを悲しみ泣きます。でも、私たちはアイスクリームと桃のようにうまく合っています。彼女は、オーストラリアで私と暮らす為に、アメリカでの暮らしをすべてあきらめました。そうするためには、勇気と内なる強さ、やり通すパワーが必要です。私はイギリスからオーストラリアに移住しました、その後、タスマニアから本土へと移りましたが、私にはいつも家族がいました。キャロリンは、すべてをアメリカに残してきました。25年も暮した家から、たった5個のスーツケースだけをもってブリスベン空港に降りてきたのです。

手放しについて話しましょう。

残念ながら、キャロリンが来たとき、私は目の手術を受けたばかりで、術後数日しか経っていませんでした。体はまだショック状態で、いつもの半分くらいのエネルギーしかありませんでした。片方の目は垂れて、私は疲れていました。キャロリンは、39時間の移動の後、飛行機から降りてきました。私たちは、二人とも、ぐったり疲れていました。お似合いの二人です！

私たちは、簡単に生活のパターンを作り上げてしまいます。自分でも気づいていなかったのですが、独り者として小さな事ですがたくさんのやり方を作り上げてきました。キャロリンがやってきて、意識せずに私が作り上げてきたものを壊してくれました。共に暮らすということがどれほど大きな事に、二人ともショックを受けています。不快なショックではありません。でも、それぞれの確立した生活、それぞれが異なるやり方を持っていました。それらすべてが混ざり合い、競合し、うまくいくかどうか、です。幸いにも、うまくいっています。

独身として生活していると、いとも簡単に自分中心の暮らしなってしまいます。キャロリンのおかげで、実際はたいした事ではないのに私にとっては大切と思われていたものを手放しました。キャロリンの人生観は、とてもよく似ていると同時に、大変異なります。そんなキャロリンからの刺激を好ましく思います。

オーストラリアの暮らし方に慣れようとしているキャロリンを見ていると彼女への想いがつのります。とても不公平ではないかと思えます。彼女はすべてに慣れなければなりません。運転の仕方も、新しいお店も、ここでは買えない好物の食べ物も、他人の家のように感じる住居も、挙げればきりがありません。

すべて、彼女が順応しなければなりません。私は、ただ彼女に愛と、手助けと安心を差し出すだけです。彼女からの愚痴は聞いたことがありません。すべて、私の観察からくるものです。

この家売って、別の地に転居しようかと真剣に考えています。新しさ、新しい始まりを今度は私がする番だと感じるからです。キャロリンは、もう新しさ、新しい始まりに喜んで取り組んでいます。しかし、彼女と新しい生活を始めた私にとって、より大きな変化がふさわしいと感じています。自給自足に近い暮らしができる場所がよいと思います。自給自足に関してはよく知っています。キャロリンと私の家、トレイシーの家、ラス、カトリーナとゼンが暮す家と同じ敷地内にあって、菜園や果樹園を、鶏や卵などを分かち合えるような場所です。ある意味、大家族の暮らしです。新しい生活になるのだから、すべてを新しくしてもいいと思うのです。しかし、これは、まだ決まった事ではありません。新しい場所は、私達全員の必要を満たさなければならぬので、簡単に見つけることはできないでしょう。

私は、我が家の庭をとても愛していますが、執着はない・・・と思います。庭は、完成されています。庭には完成というものが無いのでそういう意味では、勿論完成していません。しかし、大きな庭仕事はほぼ終わりました。庭仕事は、今、こまごまとしたものになっています。

大きな変化を伴う新しさは私達全員にとって、良いことだと思います。

正直なところ、今ここにあるものを荷造りし、余計なものは売却することを考えるだけでうんざりしますが、人生から不要なものを取り除くとどれほどすっきりすることでしょう。

すべてキャロリンが来たからです。彼女はもうすぐキャロリン・ローズになります。キャロリンへの愛は、日ごとに深まります。彼女は明るく輝く太陽の光線のようなのです。絶えない笑い、喜びを与えてくれます。時々、そんな彼女のおかげで、不思議が私を満たします。彼女の笑い、微笑み、広がる喜びに他の人たちが引き込まれていくのを見て、彼女の自然な朗らかさがどれほど素敵なことかに気づかされます。

キャロリンが、我が家に来たらたくさん調整が必要だろうと思っていたのですが、彼女がとても自然に私の生活に入り込んでいるので、難しいだろうと予測していたこともすべてただ簡単でした。とても祝福されていると思います。悲しみの深みからこれほどの愛と喜びに向かうとは、とても想像できませんでした。人は、自分に値するものを得るとよく

言いますが、キャロリンからの愛に値するほどのことをしたかどうか確かではありません。ただ感謝と賞賛が、日々深くなっています。

過去2年間に私の人生に起きたことから学んだ事は、人生で待ち受けているものがどんなことか、まったく分かっていないということです。人生は、自分たちの計画通りに運ぶと考える事もできますが、しかし、もし人生が、自分の考える通りになったら、それは一番悲しいことだろうと思います。人生がとても安全で停滞したものになるからです。私たちにはショックや、よかったり悪かったりする事や、まったく思いがけない出来事などが必要です。人生の逸脱した曲がりくねりはスピリチュアルな存在としての真の成長を促します。それが、人生です。

愛と光の中で マイケル

ローズウェイからのご挨拶 by キャロリン



オーストラリアで過ごした私の数ヶ月を書く前に、マイケルの新しい本「オーガニックガーデニング」を紹介します。彼がガーデニングに関してかなり詳しい事はよく知っていましたが、これほどとは思いませんでした。内容は、腐葉土、土質、堆肥作り、肥料、芝生、池、有機の防虫剤、盆栽、野菜や果実栽培、その他、すべて詳細に言及されており…さらに、目に見えないメタフィジカルな側面からのガーデニングについても書かれています。大地のスピリット、自然のスピリット、庭のエネルギーや大いなる自然との目に見えないつながり、大いなる自然との同調に至るまで、です。ガーデニングに関わる彼自身についても述べています。意識的であること、思考、人生とのつながり、原因と結果、全体性などについて、です。

この本からたくさんを知ることができますし、興味深く、面白い本です。菜園に興味のある人にもない人にも素敵な贈り物にもなると思います。一度、この本を読めば、誰でもきつと菜園作りをしたくなるでしょう。

ウェブサイトから有料ですがダウンロードできるように準備しています。近いうちに出版もできると思います。入手可能になったら、ホームページやメールでご案内します。

オーストラリアでの新しい生活が始まりました。人生を一掃するような数週間を過ごした後、私は無感覚と幾分ショック状態のままアメリカを発ちました。すべてを手放しました。衣類と、いくつかの個人的なもの、手で持てるほどの写真と数枚の調理法を書いた紙を除けば、すべて処分しました。私がしていることの重大さに比べると、時々湧いてくる感情を除けば、すべては驚くほど楽なものごとが運びました。移民局で起きた小さな問題もすぐに解決することができました。

アメリカの家族はこれ以上ないくらい応援してくれました。この機会が私だけでなく誰にとっても最高の成長の機会であることを知っていました。でも、アメリカを去ることはそれほど簡単ではありませんでした。家族や友人、懐かしい家、猫、車など、あげればきりがありません。いくつかの固定観念も手放しました。その一つは「母親は家族を捨てない」といった考えです。息子たちは、私がまるで亡くなるように感じていると、ただ、何日何時にそのことが起きるかを知っているだけだと言いました。

飛行機は私を新しい世界へと運んでくれる入り口のようにでした。

旅立ちのとき、私は振り返りませんでした。しようとしていることにまったく疑いやためらいはありませんでした。この跳躍を成し遂げる強さはどこで得たのかしらと時々考えてしまいます。しかし、それは愛のパワーであったことを知っています…愛の水門が開いたとき、そのパワーは山をも動かします！

マイケルの家「セレンディピティ」へ着いたとき、マイケルの子どもたちからの素晴らしい「ようこそ、我が家へ」パーティーが用意されていました。トレイシー、カトリーナ、ラッセルにゼン、とても歓迎されていると感じさせてくれました。彼らのおかげで私の移住はとてもスムーズなものになりました…そして、マイケルは最高に手助けしてくれています。

彼は、私を愛しています。決して味わったことのない敬意をはらってくれます。そのことを言葉で、行動で一日に何度も示してくれます。私はまるでこの地球で最高に祝福された女性のように感じています。彼はこの愛を芸術の一種にしてしまいます・・・私はこれ以上、彼を愛することができないのではないかと思いました。でも、毎朝目覚めると私は彼をさらに深く愛しているのです。

私が適応しなければならない変化は、際限ないように思われます。違うのです。気象も、四季も、車の左走行も、製品も、メートル法も、摂氏も、衣服のサイズも、休日も。庭の植物も。庭にいる六匹のニシキヘビや手の大きさの蜘蛛に初めはおっかなびっくりでしたが、絶えず警戒しなくてもいいことが分かって今では楽しんでいますが・・・。ペットの爬虫類(私は哺乳動物のほうが好きです)も・・・食器洗い機はないし、生ゴミ処理機もないし、衣服は一列にかけられている。

都会暮らしの私は田舎暮らしに驚いています！

でも、私は、自然とはるかに調和したこの新しい自然なライフスタイルが好きです。あ、それからオーストラリア人には、私のまったく知らない彼ら独自の言葉や成句があります・・・これだけ書いてもまだ表面的なことだけです！

先日、変化しないほうのリストを書きだすことにしました。そのほうが、はるかに少ないと考えたからです。でもどんなに考えても出てきませんでした。今も、出てきません。私である愛だけがそのままです。私の存在の真理です。その他のすべては、消されてしまいました・・・でも、これほど生き生きとした感じは、長年なかった感覚です。

アメリカを発つ前に分かったことですが、私のビザでは来年度のローズウェイツアーの期間中、海外へ行くことが認められません。そのため、オーストラリア到着後すぐに法的な婚姻届を提出しました。私たちは12月28日、我が家の庭で結婚の誓いと指輪の交換を行う予定です。お互いの家族、地元の友人たちが私たちの結婚を祝ってくれます。

マイケルの妻となることは誇りですし、とても光栄に思っています。お互いを豊かにし、高めあいます・・・ともに成長し分かち合い、ともに笑います。すべての神秘にともに驚き、時には十代のこどものようになるでしょう。

私たちは自由です！

先日、私はラッセルに、アメリカには戻らないという現実を事実として受け入れ難いこと、まだ休暇でここにいるような感じがしていると話しました。彼は「だからね・・・その素敵な休暇がずっと続くんだよ！」と答えました。

これが私のオーストラリアでの新しい日々です。

やがてくる休暇の間、何年もの未来、何世もの人生を通して、あなたが真の平安をもたらす無条件の愛であることを願います。

この世界を楽しんでください。そうすると喜びがあなたのもとにやってきます！

尽きることのない愛を送ります キャロリン

質問と 洞察

by マイケル



質問とは、自分の外に答えを求めていることを意味します。覚えておいてください。質問があるときは、あなた自身より深いところにすでにその洞察があります。それが一体性というものです。このコラムはあなた自身の内なる洞察や知恵への飛び込み台となるものです。

質問: 覚醒した存在であるのに、マイケルは、感情的な痛みと悲しみに苦しんでいました。私にとっては驚きです。苦しみに終わりはあるのですか？

洞察: 興味深い質問です。誰かが愛する人を亡くしたとき、客観的にその人がどう振舞うべきかを言うのは簡単です。

私も、愛する人を亡くして悲しんでいる人たちを観察してきた立場にいました・・・私の番がくるまでは。

では、覚醒した人とはどんな人でしょう。人間らしくない人？いいえ。感情が普通より少ない人？いいえ。よりバランスの取れた人？そうです。そのバランスが崩れることのない人？いいえ。覚醒した人は自分の感情を経験したり表現したりするのですか？私は、そうしました。そして、そのことで、私はさらなる気づき、さらなる覚醒を得ました。

質問は、感情的な痛みや苦しみは、覚醒した人に起きるべきではないという意味を含んでいます。少なくとも、覚醒した人は、普通の人のように悲しみに影響されて欲しくないという期待があります。この深い悲しみは、私にとって初めての経験でした。確かに、両親を亡くしたとき、感情的になりましたが、トリーニーのときと比べたら、本当に短いものでした。それに、両親の死は、私が覚醒する前に起きたことです。

スピリチュアルな覚醒にはいくつかのレベルがあります。覚醒、それは、はい、これで十分、というようなものではありません。完全な覚醒とは、全面的にバランスの取れた感情の状態にあることです。私たちは、包括的な存在です・・・スピリチュアル体、感情体、メンタル体、・・・包括的な存在ですから、これらすべてが整っていく必要があります。トリーニーが肉体を離れる以前に、私は、スピリチュアルに覚醒しました。しかし、感情的には不安定であり、もっと進歩が必要な状態でした。

トリーニーが亡くなって経験した私の悲しみと痛みは、喪失感だけではなく感情的な不安感でした。彼女が与えてくれた大きな贈り物のおかげで、自分では決して選択することのないプロセスを経験し、私の中にあつた感情的な執着と不安を手放すことができました。今私は、感情的な執着や不安感を持つことなく自由に愛することができます。私の見るところ、この違いはとても大きなものです。キャロリンを愛していますが、彼女に対して感情的な捉われはありません。私は彼女に愛されているとかいえないとかに依存することなく、平安です。ただ、彼女は私に大きな愛を持っていますし、私も彼女が愛してくれることを愛しています。それでも、感情的に依存はしていません。私にとって、これは新しい経験です。だから、私が涙と悲しみで表現していた痛みと苦しみは、まだ取り組まなければならなかった成長への物差しです。

私はこのことを誰にも隠しませんでした。そして、感情的な成長の道を遠くまで旅することができました。私は今、これまでよりもはるかに感情的な完全さを経験しています。

終わりはあるのでしょうか？おそらくありません。私たちが人間であり、成長に対してオープンでいる限りは・・・

感情に抵抗も否定もしないで、いつも、感情を感じるようにしているなら、私たちの感情は、より静かに、よりバランスの取れたものになります。次のことを誤解しないでください。しかし、誰かへの愛がより深く、より純粋であればあるほど、そこに感情が関わることは少なくなります。

愛は感情ではありません。感情的な執着は、愛ではありません。

しかし・・・私たちは人間です！

質問:マイケルの言う宇宙の知、あるいは内なるところからの知とは何ですか？

洞察: 内なる知、内なるところからの直接的な知という言葉を使っています。私は、そのように経験するからです。しかし、もっと正確な表現を使うと、それは神秘的な認識と言えます。

認識とは知識を得るときの知覚、直観、理性を含むメンタルな活動やプロセスを意味します。スピリチュアルな言葉を使うと、認識とは直感的で知覚的です。

神秘なるという言葉は神のような、神聖な、あるいはメタフィジカルな重要性があることを意味します。

辞書からの神秘と認識の意味をあわせると驚くほど正確な表現になります。

勿論、どのようにしてこの神秘なる認識を得るかについては語っていません。質問者は、どのようにして内なる知を得るかを、知りたいのだと思います。

誰の中にも未踏のスペースがあります。私の用語ですが、このスペースには境界も終わりもありません。つまり、それは、全てであるものつながつているところです。そこは、私たちが本当に人生を生きる場所であり、全てが一つである場所であり、たくさんの転生の異なる直線にある時間のすべてが、永遠に生きている不滅の存在とつながるスペースです。このスペースではセルフの他には何もありません。そこを超えるものは何もなく、何も、なされねばならないことはなく、何事もすべてではなく、すべては、なにでもなく・・・あらゆることは、未踏のスペースにあります。あなたは、瞬間の中で、すべてを直接的に知る事ができるのです。なぜなら、あなたとそのスペースは一つだから。この説明に

は、消化するのに時間がかかることを知っています。しかし、理解しようとするよりも、ハートで受け止めることを勧めます。

神秘なる認識は理解をはるかに超えています。だから、頭では分かりません。私にとっての神秘なる認識とは、瞬間におけるセルフの表現に関わるどんなことも知る必要のあることは直接的に知ることができるということです。内なるところから知ることができます。もし、知りたいというだけの理由で何かを知りたいなら、その欲する行動が神秘なるスペースから私を切り離します。

このコラムでは皆さんの質問を受け付けています。人生について、生きることに関して、何か質問があれば、下記へご連絡ください。 carolyn@michaelroads.com

オフィス便り by トレイシー・ローズ



こちらは、とても素晴らしい天候が続いています。夏が近づいているため、暖かく晴天の日々です。ウォータードラゴンは、陽光を楽しんでいます。冬の間、父とラッセルと私は、ウォータードラゴンの赤ちゃんをもっとひなたぼっこができるよう移動させました。移動させるときに、数を数えたのですが、21匹いました。つまり、すべて元気に育っているのです。青い舌のトカゲも外へ出てきました。私が育てているメスのウォータードラゴン、クロウ夫人は砂利と砂を掘り始めました。次の卵を産む準備をしています。

野生動物病院から爬虫類のリハビリをしてほしいと頼まれました。獣医による検査を受けて、問題がなくなった爬虫類が自然の中に帰れるようになるまで世話をすることになります。今日、ケージが届きました。明かりをつけるなど、まだいくつか環境を整えてあげなければなりません。

キャロリンと一緒に暮し始めました。私の二人目の母親です。彼女は、たくさんのことを手放しましたが、その代わりに、またたくさんのことを受け取っています。先日、彼女を地元のスーパーマーケットに連れて行ってあげました。通りを運転しているとき、彼女に、路上の駐車場はすべて駐車されており、目の前には4台も車があったので、まじめな顔をして、キャロリンに「ラッシュアワーみたいに混んでいるわ」と言うと、ニューヨークに住んでいた彼女は大笑いしていました。

それから、通りを歩いているとき、彼女に言いました。「ここが町の目抜き通りよ・・・といっても、通りがあるのはここだけなんだけど」キャロリンはまたくすくす笑いました。

彼女は、よく馴染もうとしてくれます。彼女は父に隣に座ってもらって運転します。ここは、アメリカと違い右側通行だし、運転席も反対になります。右折や左折するとき、彼女が間違っワイパーを動かしてしまうのを見るのは面白くないではありません。キャロリンがこちらでパソコンを立ち上げて、新しいアドレスを入手する手伝いをしました。私たちの猫は、彼女を歓迎しています。彼女は、いろんなことを手伝ってくれます。

でも、一番うれしいのは、父が再び幸せになったことです！

事務室ではまだたくさんする仕事があります。父の新しいガーデニングの本はまもなく、ウェブサイトに載せますので、イーブックとしてダウンロードできるようになります。この本は、80年代の後半に出版され、とても好評だった本を新しく書き直したものです。菜園がある人には、なくてはならない本だと思います。初心者にも経験豊かな人たちにも価値のある内容になっています。

この号が今年最終号となります。12月には大家族が集合して盛大なクリスマスパーティーを予定しています。イ

ギリスからは、伯父や従姉妹が、南東部オーストラリアからは、兄達家族が、アメリカからはキャロリンの息子たちが、およそ 22 名が集まります。そして、皆が集合している 12 月 28 日は父とキャロリンの結婚式があります。だから、私達全員にとって、とても忙しくて楽しい日々になります。

.....

私は、ひどい風邪をひいて、1 週間ほど寝込んでいました。ひどい咳き込みもありました。それに、ある日、猫のパンが椅子におしっこをしたのできれいにしていたときです・・・父は今、日本ですが、父が、家を離れるたびにパンは、夜間テラスに置いてある椅子のすべてにおしっこをかけて、父の不在に不満を示します・・・パンのおしっこを洗い流すためにバケツに水をいれて運んでいたとき、右側の腰の上がギクツとなりました。それ以来、ベッドで出来るだけ横になっています。

回復してきてはいますが、痛くてまだ座ることが出来ません。それで、キーボードの下に、分厚い本を 2 冊置き、立ちながらコンピューターに向かっていきます。そのため、私に代わってキャロリンがすべてしなければなりません。たとえて言うと、彼女はどん底まで投げ込まれました、でもちゃんと抜け出してうまくやっています。

今では、運転にも慣れ、必要なときはアシダカグモを捕まえることができますし、水遣りから私の爬虫類の餌やりもしてくれています。

先日、キャロリンに、買い物のリストを渡したとき、彼女は笑い出しました。

そのリストは次のようなものでした。

大きなコオロギ 一缶

中サイズコオロギ 二缶

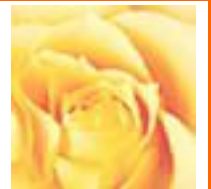
Lサイズのミミズ 一缶

臭い消しスプレー(猫のおしっこ用)

言うまでもなく、ペットショップでの買い物リストです。キャロリンがいなければ、私は病気で寝込むことも出来なかったと思います。私には休みが必要でした。寝込んだおかげで、これまでの人生で押し殺してきたたくさんの感情に触れることができました。病気は感情を解き放つ良い機会です！

愛を込めて トレイシー

ゼンの子育て by カトリーナ・ローズ



どういうわけか、意識してゼンの子育てをすることで、ゼンが、幼児や、幼稚園児の典型的な振る舞いをしないだろうと私は考えていたようです。そんなふうに考えているとは気づいてもいませんでした。でも、今では明らかにそうだったと思います。そんな信念を持つなんて的外れもいいところです。

たとえば、ゼンは叩かれたり、伝統的な方法での罰を受けたりしたことはありません。伝統的な罰とは、たとえば自分の部屋に閉じ込められたり、お尻を叩かれたり、怒鳴られて一人にされたり、泣いていてもほっておかれたり、ひどくののしられたり・・・などです。ゼンにはテレビを見せていません、だから、誰かに対する暴力行為を見ることもありません。遊び友達のグループにも入っていないので、子供たちがよくやるケンカや取っ組み合いで殴られたこともありません。彼は一人っ子なので彼をひっぱたいたりする兄弟もいません。

にもかかわらず、ゼンには怒りの爆発があつて、私を叩いたり、蹴ったり、物をわざとぶつけたりします。怒りの目で私を見て叩きます。ラッセルも私も驚きました。

怒りが彼の顔に見えても、私は静かにしています。だから、彼が仕返しされることはありません。

彼の行動は彼の中にあつて、この人生で表現されています。教えられなくても湧いてくる行動です。私は、できるだけ愛を彼に注ぐことで愛してくれると思っていました。

この人生で、これまでの彼の行動を繰り返すのではなく、別の表現方法があることを学ぶ機会が彼にはある・・・そう

思います。私たちの育て方によって、彼が必ずしもこれまでとは違う選択をするかどうかは分かりませんが、これからの彼の人生は、別の生き方という環境のなかで生きることになります。

ゼンの振る舞いは、育て方や環境に関わらず人間は生まれてきたときからすでに習慣や振舞い癖があることを示しているように思います。

ラッセルと私は、「意識的な親」です。どういう意味かという、ゼンといるとき、子供時代に親からされてきたことから無意識に関わるのではなく、ゼンとどう関わりたいのかを意識的に選択することです。そうすることで自分自身の子供時代からの痛みや傷も癒しています。だから、彼と関わるときはいつも自分たちの意図も言葉も、動機にも気づいていたいと思っています。ゼンに対して、それから自分自身に対しても、できる限りの愛から関わる、愛を選択しようとしています。そうすることで、ゼンと、自分自身と、深くつながります。

私たちは、自分たちが、よい聞き手になること、広い範囲で自分を再教育するようにしています。

人生において親となるための学校にいます！

私たちは、愛のある行動がどんなものであるか、どんな風に話しかけられ、接して欲しいのかに関して、魂の探究をしています。そして、そこで学んだ事をゼンにあてはめています。

私のハートはゼンに、執着することなく、できるだけ真の愛を持って育てるようにと、はっきり伝えます。

ゼンはまだ私たちのベッドで寝ています。このことで、賛同より批判の声をたくさん聞きます。でも、私は自分の直観に従います。今、彼に対する私たちの一番の思いやりは、彼に感情的な安定と内なる平安を提供することです。それが、私たちの焦点となっています。だから、感情的な安定と内なる平安が私たちの中で育っています。

彼が求めているのは、感情的な安定と内なる平安のようです。そして、彼にそのことを与えられるのは私たちです。ゼンはホームスクールを受けることになり、つまり、家庭で教育します。あまり賛成されませんが、私の中で内なる声、愛の声が、優っています。

だから、今私が言えることは、あなたの内なる声を聞いて、その声に従い、信頼し、生きることです。

たくさんの愛を込めて カトリーナ

意識のコラム by マイケル



数ヶ月前、私は魂とスピリット、それから、ハイアーセルフの違いについての質問を受けました。そのときその質問に答えながら、たくさんの人たちが、このことに関して明確ではないかもしれないと思いました。それで、このコラムで書くことにします。

あなたも私も、肉体とアイデンティティ(訳注:用語説明は文末に)をまとった魂です。いわゆる輪廻転生を考えると考えられているのは魂です。しかし、それは誤解を生む表現です。この言葉からは、私たちは死んで、それから、地球に再び生まれ変わるというイメージを与えます。言い換えると、生まれては死に、生まれては死に、何度も繰り返し転生することを意味します。これは偽りです。

体は死んでも、アイデンティティはしがみつきます。それから、魂は永遠に続きます。私たちの生命は魂が継続したものであり、次々と体とアイデンティティを使いながら魂の成長と意識の広がりを続けます。本当の自分である大いなるセルフへの気づき、覚醒への旅を続けます。

私は、このプロセスを映画のフィルムにたとえます。タイトルは大いなるセルフの継続性。本当の私たちは決して死にません。だから、生まれる事はありません。時間のないより偉大なフレームにおいて生命は継続します。魂と大いなるセルフには直線の時間を計るようなものはありません。体とアイデンティティは肉体の老化から直線の時間を計ります。なぜなら、物質的には直線の時間に生きているからです。

直線の時間が、私たちに原因と結果、二極性の現実を与えます。それは、人間の意識が成長し広がりを持つため

には素晴らしい道具です。しかし、そのために、私たちは死すべき運命にあると信じます。本当に死ぬと信じて受け入れます。たくさんの人にとって、死は究極の終末を意味します。あるいは、墓場で死者復活のラッパを待つと信じる人もいます。人生をどう生きたかによって、天国か地獄のどちらかに行くと思う人たちもいます。それから、多くの人が、執念深い神によって裁かれると信じています。

より偉大な現実において、すべての時間は同じ空間を占めています。私は、これを球状の時間と呼んでいます。つまり、私たちは永遠の瞬間に生きているのです。魂もハイアーセルフもこのことを知っています。しかし、魂は、魂の成長のプロセスとして直線の時間を出たり入ったりします。この成長の過程の期間、それは、直線の時間で言うと何千年に及ぶと言えます……一方、より偉大な現実では、永遠の瞬間が占めています……しかし、魂はこの真理を忘れるのです。

そのため、魂はアイデンティティに依存して、名前を付け、その人生に意味を与えようとします。しかし、魂が成長するにつれて、次第に、あるいは突然、偉大な真理とつながります。そして、魂は自身が大いなるセルフであることを知るのです。

この過程において、アイデンティティとエゴはいかなる意味もなくなり、日々の恐れや、分離の幻想を私たちに与えなくなります。なぜなら、大いなるセルフはすべての生命とつながっているという一体性、ワンネスを知っているからです。

個人的には、ハイアーセルフという言葉を使うのが好きではありません。ハイアーセルフという言葉は、アイデンティティである私がより低い自分という意味を暗示するからです。これは、真実ではありません。あなたと、私はアイデンティティと魂の経験を通して本当の自分であるセルフを見出す途上にいる魂と大いなるセルフだからです。

恐れを小さくするとと思われる金銭的成功がどうしてさらなる恐れとなるのでしょうか？

恐れはいつも偽りと幻想を支えとします。恐れを解消するとと思われるどんなものも、恐れに餌を与え、滋養を与えているのです。何年も前に、私は豚を飼っていました。食事の時間になると、彼らは大きな声で鳴き叫び、食べ物を求めて甲高い声を出したものです。百頭を超える豚の耳をつんざくような泣き声を止めるために急いで餌を与えました。勿論、平安は次の食事時間までしか続きません。これが恐れというものです。

たとえば、恐れが叫ぶのを止めるために食事用チケットを買います。その瞬間に次のチケットが買えないので、恐れが再び叫び始めます。この間に、豚の、恐れ食欲はさらに増していくのです。この行き着くところが、わかるでしょうか。それは、あなたの存在の中でこだまする恐れを止めるためならどんなことでもする、それは条件付けられた反応となり、何世も続くようになるのです。これは、向かう先がさらに厳しくなる魂の旅です。

自分は大変成功していると思なす人たちがいます。多くの方は、幻想の中で、魂、生命のプロセスというものが分かっています。彼らは、エゴやアイデンティティに急ぎ立てられた恐れのために、もっとたくさん稼ぐことを、さらなる経済的安定を求めます。しかし、そのことに気づいていません。こういった状況のために病院はいつも人々であふれています。盲目的な信念は一時的な解決となりますが、真の解決にはなりません。

さらに悪いことには、こういう状況にいるほとんどの人が、その状況の真実を知りません。彼らの焦点は、真実、つまり解決よりも、幻想、つまり問題にあります。

ここで頭から知的に取り組んでも何も解決しません。なぜなら、幻想を信じ、幻想の自己欺瞞を作り出すのは知性だからです。知性は長い間に分離を信じ、分離が確たるものとなっています。それに比べて英知は、全体性、一体性から表現します。恐れに対して、英知を使うなら、恐れが本物でないことにすぐに気づくでしょう。

恐れは、私たちが作り出したものです。包括的な英知にとって恐れを作り出す理由は何一つありません。孤立した知性は、もしかしたら、もしも……と最悪のシナリオを考えて恐れを作り出します。

ここで、恐れから、抜け出る方法を伝えたいと思います。信頼することです！セルフを信頼することです！たとえ状況がその反対に思えるようなことであっても、あなたは十分に素質もあり有能であることを信頼してください。本当のあなたである不滅の存在は、人生に起きてくるどんなことに対しても対処できる英知があります。だから信頼してください。

つまるところ、人生の脚本を書いているのはあなたです。

あなたは、素晴らしい肉体を超えた多次元の愛と光の存在です。そのことを信頼するのです！

すべての生命の中に、スピリットがいます。あなたはスピリチュアルな存在です。あなたである魂は、スピリットが個性化し、花開いたものです。人生のあらゆる瞬間にあなたはスピリットを表現しています・・・そして、すべてのスピリットは一つです。スピリットにおいて、あなたはすべての生命と一つです。

何事も肯定的に受け取ろうと、否定的になって批判しようと、あなたの考え方があなた自身と他の人たちに対する接し方となります。そうして、あなたの態度、生き方が、あなたが向き合うあなたの人生を作り出します。

自然におけるすべての生命は、スピリットの表現であり、あなたの中で表現されているのも同じスピリットです。スピリットを通してあなたはすべての生命とつながっています。セルフの外には何もありません。セルフとは境界のないスピリットが表現されたものです。魂が体から抜けても、スピリットは魂とともにいます。なぜなら、魂はスピリットが表現されたものであり、体は魂が表現されたものだからです。

スピリットが死ぬ事はできません。生命も死ぬ事はできません。いわゆる人間の死と呼ばれているものは、意識、スピリット、魂が肉体から撤退することです。そして、物質的ではないレベルでの表現を、肉体を超えたメタフィジカルな愛と光の存在として続けます。

あなたは永遠の愛の存在です。

あなたが好きなようにセルフを表現する自由をもっています。

あなたの想像力が創造します。

あなたが絶えず想像することを、やがてあなたは経験します。

だから、何を想像するかに気をつけてください。想像力を手段としてみなすのです。あなたが作り出す内なる想像が、あなたの人生となるからです。

大いなる愛と光の存在としてあなた自身を見なすのです。

それが、叡智です。

愛と光の中で マイケル

“あなたは肉体を超えた多次元の素晴らしい愛と光の存在です。その真理を生きましょう。”

セルフ(Self): 本当の私たちである永遠の存在。

アイデンティティセルフ(Identity self): 生まれたときから始まり、名前を与えられ、人生を通して個性と人格を育てる。